

広い視野から考える力を育てる社会科学習

名古屋市立田代小学校教諭 林 俊 宏

I 研究のねらい

明治時代は、どちらかと言えば過ごしやすい時代だと思う。四民平等によって、これまで武士だった**士族**が武士としての収入を得られず、困窮してしまった。また、地租改正で、土地の価格の3%を現金で納めなくてはならず、**平民**にとっては負担が大きかった。けれど、地租改正によって国の収入は安定し、その収入で産業にもお金を使うことができた。産業が発展すると、**士族**や**平民**にとっても生活が便利になった。さらに、特権階級である**華族**は、華族令によって、選挙に関係なく議員として議会に参加できるため良かった。

これは、第6学年の単元「明治の国づくりを進めた人々」で「明治時代は、過ごしやすい時代だったのでしょうか」という学習問題②に対して「広い視野から考える」ことができた子どもの記述である。この子どもは、四民平等や地租改正、国会開設が与える影響を士族や平民、華族の立場から考えている。私が考える「広い視野から考える」とは、この子どものように、社会的事象に関連する立場を意識した上で、社会的事象の意味を多角的に考えることである。

現代社会は、地域の過疎化、少子高齢化などの問題を抱えているが、これらの社会の問題が及ぼす影響は、立場ごとに異なる。例えば、少子高齢化によって、労働力不足になり、働き盛りの世代にとっては負担が増える。また、社会保障制度の維持が難しくなり、年金の支給額が減ったり、医療費の自己負担が増加したりするなど、高齢者にとっても生活は苦しくなる。一方、外国人労働者にとっては働き口が増える。

小学校学習指導要領解説社会編の第5学年と第6学年の目標には、「社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力」を養うことが明記されている。また、第5学年の内容には、「消費者や生産者の立場に立って多角的に考え[略]」と二つの立場から考える必要性が記されている。筑波大学附属小学校教諭の粕谷昌良氏も、著書『「考えたくなる」社会科授業』で、「一つの社会事象を異なる二人以上の立場になって学習することで、児童は一面的な見方をすることがなくなり、社会事象への理解が深まり、より良い判断を行うことができるようになる」と述べている。さらに、著書『アナザーストーリーの社会科授業』の中では、6年生で、江戸時代はどのような時代だったのかについて、「将軍」「大名」「農民」の三つの立場で意見交換をする実践研究をされている。しかし、私のこれまでの実践を振り返ると、社会的事象に関連する立場を意識できていなかったり、社会的事象の意味を一つの立場のみで考えたりする子どもの姿が見られた。これは、社会的事象によって、どの立場の人がどうなったのか、そして、どのような影響があったのかを考えさせることができなかつたからだと考える。

以上の点から、私は、学年の段階を踏まえ、三つの立場を取り上げ、社会的事象について調べて立場を明確にしながらまとめる活動や、社会的事象が立場に与える影響について他の立場との対話を繰り返す活動を通して、広い視野から考える力を育てたいと考えた。

II 研究の方法

1 研究の対象 名古屋市立田代小学校 第6学年 30人

2 基本的な考え

広い視野から考える力を育てるためには、調べた社会的事象を基に、「誰が(は)どうなった(どうした)」のかと、そこから考えられる良い影響や悪い影響を立場ごとにまとめる。その上で、他の立場との

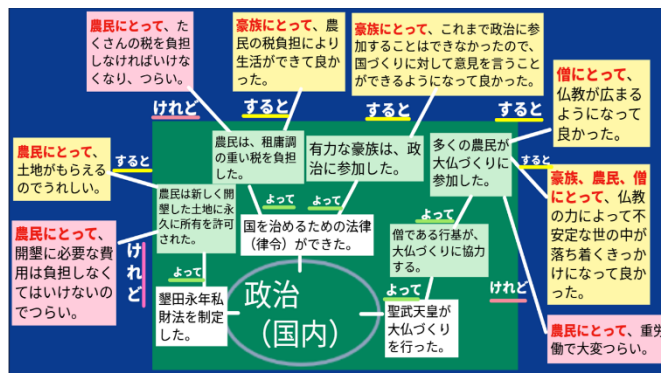
対話を繰り返し、学習問題について考える必要があると考える。これらにより、社会的事象に関連する立場を意識した上で、社会的事象の意味を多角的に考えることにつなげたい。そこで、「つかむ」「調べる」「まとめる」「考える」の学習段階を設定し、学習を進めることにした【資料1】。

段階	主な学習活動
つかむ	○ 写真や資料から、疑問に思ったことや調べたいことを話し合い、学習問題①をつくる。 ○ 学習問題①の予想から、必要な内容を話し合い、視点を設定し、学習計画を立てる。
調べる	○ 学習計画に沿って、教科書、資料集、インターネット、図書資料を活用し、調べ学習を行う。 ○ 調べた内容を立場を明確にしながらまとめる。
まとめる	○ 学習問題①についてまとめる。 ○ 学習問題②をつくる。
考える	○ 社会的事象が立場に与える良い影響や悪い影響をまとめる。 ○ 立場に与える良い影響や悪い影響について、対話を繰り返す。 ○ 対話を繰り返した後に、学習問題②について自分の考えをまとめる。

【資料1 基本的な学習の流れ】

(1) 「よって」マップと「よ・す・け」マップの作成

社会的事象に関連する立場を意識することができるようするために、「調べる」段階で、「よって」マップを作成する。「よって」マップとは、追究する視点に関連する社会的事象から「誰が(は) どうなった(どうした)」のかを接続詞の「よって」で立場を明確にしながら、カードでつなげたものである。また、「考える」段階で、「よって」マップの「誰が(は) どうなった(どうした)」から考えられる良い影響を接続詞の「すると」、悪い影響を接続詞の「けれど」で立場を明確にしながらつなげて、「よ・す・け」マップを作成する【資料2】。



【「よって」マップと「よ・す・け」マップ作成の手順】

- ①真ん中に追究する視点を記入する。
- ②視点から線でつなぎ、その視点に関連する社会的事象を白いカードに記入する。
- ③社会的事象によって、「誰が(は) どうなった(どうした)」のかを緑色のカードに記入する。
→「よって」マップの完成
- ④「誰が(は) どうなった(どうした)」から考えられる良い影響を黄色のカード、悪い影響をピンク色のカードに記入する。→「よ・す・け」マップの完成

【資料2 「よって」マップと「よ・す・け」マップ】

(2) 「なりきり質問会議」の設定

「まとめる」段階で、まず、「〇〇の時代は、過ごしやすい時代だったのでしょか」という学習問題②をつくる。次に、「考える」段階で、「よ・す・け」マップの三つの立場に与える良い影響や悪い影響を考える。そして、「よ・す・け」マップに記述された影響を基に、「なりきり質問会議」を行う。「なりきり質問会議」とは、グループで立場ごとに分かれ、「よ・す・け」マップの良い影響や悪い影響について、立場になりきって質問と応答を繰り返し行う会議である【資料3】。その際、子どもたち全員が三つの立場を全て経験できるようにする。さらに、「なりきり質問会議」で得た新たな影響を、自分の「よ・す・け」マップに付け加えていく。最後に、「よ・す・け」マップの立場に与える影響を基に、学習問題②について自分の考えをまとめる。

【資料3 「なりきり質問会議」の例】

このように、「よ・す・け」マップの立場に与える影響について「なりきり質問会議」を行う中で、複数の立場への良い影響や悪い影響に気付くことで、社会的事象の意味を多角的に考えることができると考えた。

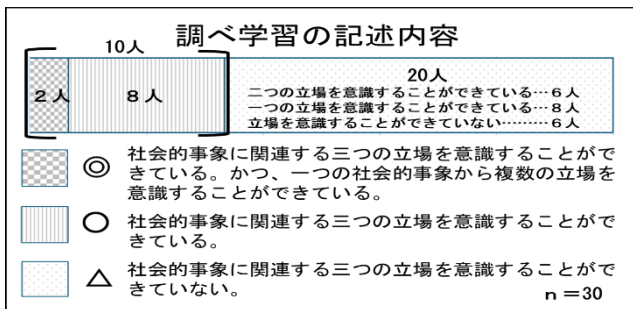
Ⅲ 子どもの実態

- 1 調査日 5月12日～5月23日
- 2 調査方法 プレ実践における記述分析
- 3 調査対象 名古屋市立田代小学校 第6学年30人

4 記述調査の結果と考察

(1) 社会的事象に関連する立場を意識することができているか（調査1）

単元「子育て支援の願いを実現する政治」において、「名古屋市は、どのようにして子育てしやすい市をつくることができたのでしょうか」という学習問題①に対する調べ学習の記述内容を分析した【資料4】。「赤ちゃんが生まれた保護者は、『BABY YELL!』で、50,000ポイント分の商品がもらえる」「子どもは、どんぐり広場で遊ぶことができる」「妊婦が、タクシー利用券で緊急時



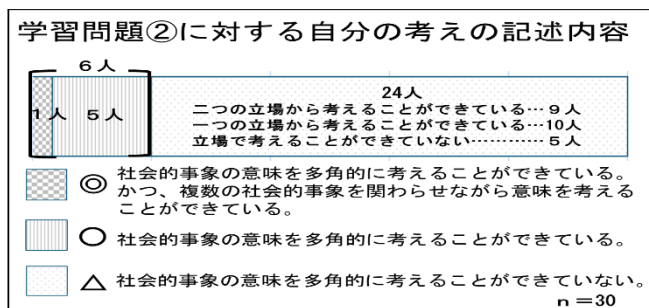
【資料4 調べ学習の記述分析】

にタクシーを使える」といった「保護者」「子ども」「妊婦」の三つの立場を意識してまとめることができている子どもが30人中10人いた。そのうち、一つの社会的事象から複数の立場についてまとめることができた子どもが2人いた。一方で、三つの立場を意識してまとめることができなかった子どもが30人中20人いた。これは、5年生では、二つの立場を取り上げて学習を進めることが多く、6年生の初めの学習では、三つの立場を意識することができなかったことが原因だと考える。

このような実態から、追究する視点に関連する社会的事象から「誰が（は）どうなった（どうした）」のかを接続詞の「よって」でつなげてまとめることで、社会的事象に関連する立場を意識することができる工夫が必要だと考える。

(2) 社会的事象の意味を多角的に考えることができているか（調査2）

単元「子育て支援の願いを実現する政治」において、「名古屋市は、子育てにおいて過ごしやすい市なのでしょうか」という学習問題②に対する意見交換後に記述した自分の考えを分析した【資料5】。「『ぴよか』で、多くのサービスを受けられるので、保護者にとってもありがたい。また、タクシー利用券は、移動することが大変な妊婦にとってうれしい。さらに、子どもはどんぐり広場で安全に遊ぶことができる。だから、過ごしやすい市だと思う」のように社会的事象の意味を多角的に考えることができた子どもが30人中6人いた。そのうち、複数の社会的事象を関わらせながら意味を考えることができた子どもが1人いた。一方で、社会的事象の意味を多角的に考えることができなかった子どもが30人中24人いた。これは、意見交換する中で、三つの立場への影響について考えることができなかったことが原因だと考える。



【資料5 学習問題②に対する自分の考えの記述分析】

このような実態から、社会的事象が三つの立場に与える影響について、子どもたちが立場を意識して繰り返し対話をする活動を通して、社会的事象の意味を多角的に考えることができる工夫が必要だと考える。

5 観察する子どもについて

実態調査の結果から本研究で観察する子どもを3人抽出した。調査結果は、以下に示すとおりである。

	調査1	調査2	子どもの実態
A児	○	△	調べ学習の記述内容から、三つの立場を意識することができている。一方で、意見交換を通して、社会的事象の意味を一つの立場から考えることはできているが、多角的に考えることができていない。
B児	△	△	調べ学習の記述内容から、一つの立場を意識することはできているが、三つの立場を意識することはできていない。また、意見交換を通して、社会的事象の意味を多角的に考えることができていない。
C児	△	△	調べ学習の記述内容から、立場を意識することはできていない。また、意見交換を通して、社会的事象の意味を多角的に考えることができていない。

IV 第1次授業研究（6月）

1 単元 天皇中心の国づくり

2 目標

大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、聖徳太子、中大兄皇子や中臣鎌足、聖武天皇が行った国づくりの様子を理解することができるようにする。また、聖武天皇の時代の国づくりについて、社会的事象が複数の立場に与える影響を踏まえながら考え、適切に表現することができるようにする。

3 検証項目

- (1) 「調べる」段階において、社会的事象から「誰が（は）どうなった（どうした）」のかを立場ごとに「よって」マップにまとめることは、社会的事象に関連する立場を意識する上で有効か、「よって」マップの記述内容からつかむ。
- (2) 「考える」段階において、「よ・す・け」マップに記述された影響を基に「なりきり質問会議」を行うことは、社会的事象の意味を多角的に考える上で有効か、学習問題②に対する自分の考えの記述内容からつかむ。

4 実践の概要(10時間完了)

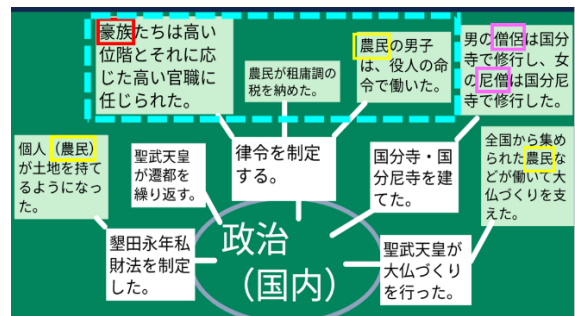
段階	主な学習活動
つかむ	第1時 天皇中心の国づくりを進めた聖徳太子の亡くなった後から大仏が完成した年まで、長い年月がかかっていることから、学習問題①「聖徳太子の死後、なぜ天皇中心の国をつくりあげることができたのでしょうか」をつくる。 第2時 学習問題①に対する答えの予想を出し合い、追究する視点を設定し、学習計画を立てる。 【視点】・政治（国内） ・政治（国外） 【立場】・農民 ・豪族 ・僧
調べる	第3時 学習問題①に関係する社会的事象を調べる。 【政治（国内）】・律令の制定 ・遷都を繰り返す ・国分寺・国分尼寺を建てた ・大仏づくり ・墾田永年私財法 【政治（国外）】・遣唐使の派遣 ・鑑真を招く 第4～5時 社会的事象から「誰が（は）どうなった（どうした）」かを「よって」マップにまとめる。 【検証場面1】
まとめる	第6時 「よって」マップを基に、学習問題①についてまとめる。学習問題①の記述内容から、学習問題②「聖武天皇の時代は、過ごしやすい時代だったのでしょうか」をつくる。
考える	第7～8時 「よって」マップの先から考えられる良い影響や悪い影響を立場ごとに「よ・す・け」マップにまとめる。 第9～10時 「よ・す・け」マップに記述された影響を基に、「なりきり質問会議」を行い、学習問題②について自分の考えをまとめる。 【検証場面2】

5 第1次授業研究の様子と考察

(1) 検証場面1（第4～5時）

第4時と第5時では、社会的事象から「誰が（は）どうなった（どうした）」かを「よって」マップにまとめる活動を行った。第4時の初めに、全体で「律令を制定する」を取り上げ、「よって」マップの描き方を確認した。その後、個人やペア、グループで調べ学習を進めた。

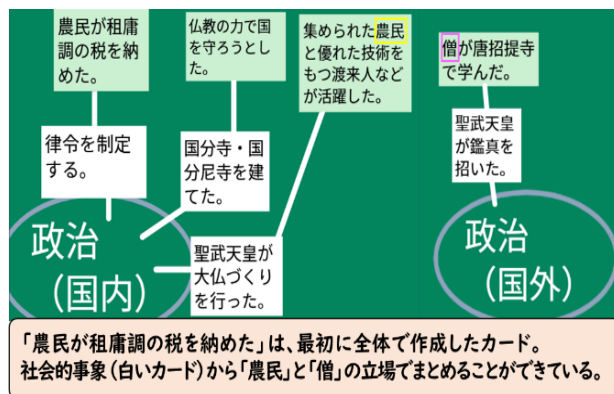
A児は、個人の調べ学習で、資料集を基に、「農民などが働いて大仏づくりを支えた」「豪族たちは高い位階とそれに応じた高い官職に任じられた」と記述した。そして、友達との調べ学習でも、社会的事象について意見交換する中で、関連する立場について気付くことができ、「農民の男子は、役人の命令で働いた」などと記述した。その後も、調べ学習を進め、カードを追加していった。A児は、「誰が（は）どうなった（どうした）」という文型に当てはめたことで、常に立場を意識しながら調べ学習を行い、「よって」マップを完成させていた【資料6】。



「農民が租庸調の税を納めた」は、最初に全体で作成したカード。社会的事象（白いカード）から、緑色のカードで「農民」「豪族」「僧」の三つの立場についてまとめることができています。また、社会的事象「律令を制定する」から、「農民」と「豪族」の二つの立場を意識してまとめることができています（水色の点線で囲ってある部分）。

【資料6 A児の政治（国内）の「よって」マップ】

一方で、C児は、教科書や資料集の該当する社会的
事象のページを見てはいたものの、それらによって
「誰が（は）どうなった（どうした）」の誰の部分が
分からず悩んでいる様子だった。友達との調べ学習
で、誰の部分を理解し、「集められた農民と優れた技
術をもつ渡来人が活躍した」や「僧たちが唐招提寺
で学んだ」と記述した【資料7】。そのため、調べ学習
で、C児は、農民と僧の立場を意識することはできた
が、豪族の立場を意識することはできなかった。



【資料7 C児の政治 (国内) と (国外) の「よって」マップ】

(2) 検証場面 1 の結果と考察

A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
社会的な事象に関連する三つの立場を意識することができている。かつ、一つの社会的な事象から複数の立場を意識することができている。	社会的な事象に関連する三つの立場を意識することができている。	社会的な事象に関連する三つの立場を意識することができていない。
20人		10人 (C児)
7人 (A児)	13人 (B児)	

A児やB児のように、三つの立場を意識して、「よって」マップにまとめることができた子どもは30人中20人いた。これは、社会的な事象から接続詞の「よって」でつなげて、「誰が（は）どうなった（どうした）」のかをまとめたことで、社会的な事象と様々な立場のつながりが明確になり、立場を意識しやすくなることができたからだと思われる。

一方で、C児のように、三つの立場を意識することができなかった子どもが30人中10人いた。これは、特定の友達と調べ学習をしていた子どもは、調べる内容が偏ってしまったために、社会的な事象と立場のつながりに気付くことができず、三つの立場についてカードにまとめることができなかったからだと思われる。

(3) 検証場面 2 (第9～10時)

第7時と第8時では、「よって」マップの先から考えられる良い影響や悪い影響を立場ごとにまとめた。第9時と第10時では、農民、豪族、僧の立場がいる6人グループとなり、「なりきり質問会議」を行った。

B児は、「なりきり質問会議」で、「律令で農民が租庸調の税を納めて、そのお金で豪族は生活ができて良かった」ことなどに気付くことができた【資料8】。また、僧の立場で、農民の立場からの質問に対しても「よ・す・け」マップを見ながら、応答することができていた。「なりきり質問会議」後には、複数のカードを追加していた。そして、学習問題②に対して、「少し過ぎやすい時代だった」として、三つの立場から理由を記述していた【資料9】。C児は、僧の立場の時に、「鑑真が来て農民にとっては良いことがあった？」と質問し、「文化が伝わってきたことで、少しは良かった」と応答され、「よ・す・け」マップに付け加えていた。しかし、自分で「よ・す・け」マップの僧の立場に与える影響についてまとめることができていなかったため、他の立場からの質問には応答できていなかった。また、学習問題②に対して、「農民は大仏づくりでつらいことが多く、僧も大変なことが多いから過ぎにくい」と記述していた。

B児が農民の立場のとき

B児農民 質問…律令は、私たち農民にとっては、税負担が大きかったよ。豪族の人たちはどう？

児童豪族 応答…俺たちは、農民の税によって生活ができたから、とてもうれしいよ。

B児が僧の立場のとき

児童農民 質問…鑑真が来て、薬草の知識が広まって、私たち農民は少し安心だったけど、僧はたくさん良いことあった？

B児僧 応答…鑑真が来て正式な仏教が伝わって、我々僧はたくさん学ぶことができて良かったよ。

【資料8 B児の「なりきり質問会議」】

私は、少し過ぎやすい時代だったと思う。なぜなら、農民は、律令で重い税や労働があつて逃げる人もいてとてもつらかった。また、律令で農民が治めた税によって、豪族が生活することができて良かった。鑑真が来て、薬草の知識を広めたことで、農民は少し安心して生活できたり、正式な仏教を伝えたことで、僧が正式な仏教を学ぶことができてたりして良かった。

【資料9 B児の学習問題②に対する自分の考えの記述内容】

(4) 検証場面 2 の結果と考察

A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
社会的事象の意味を多角的に考えることができている。かつ、複数の社会的事象を関わらせながら意味を考えることができている。	社会的事象の意味を多角的に考えることができている。	社会的事象の意味を多角的に考えることができていない。
18人		12人 (C児)
3人 (A児)	15人 (B児)	

A児やB児のように、学習問題②の記述内容から社会的事象の意味を多角的に考えることができた子どもは30人中18人いた。これは、「なりきり質問会議」で、自分が知りたかった社会的事象の他の立場への影響に気付き、それらを基に学習問題②についてまとめたことで、社会的事象の意味を多角的に考えることができたからだと考える。

一方で、C児のように社会的事象の意味を多角的に考えることができなかった子どもが30人中12人いた。これは、一人で影響を考えることができなかつた子ども同士で「なりきり質問会議」を行っても新たな影響を付け加えることができなかつたり、それぞれの立場に対するどの影響に着目して理由を記述したらよいか分からなかつたりしたためだと考える。

V 長期研修で学んだこと

1 筑波大学附属小学校教諭 粕谷 昌良 氏

粕谷氏は、社会事象を異なる立場から多角的に考える力を育てるための研究をされている。「考える」段階の流れについて、立場への影響について考えやすくすることが重要であると御指導いただいた。第2次授業研究では、子どもたち一人一人を一つの立場から影響を考えさせ、「なりきり質問会議」を通して他の立場への良い影響や悪い影響に気付かせることで、社会的事象の意味を多角的に考えることができるようにする。

2 東京都世田谷区立代沢小学校指導教諭 横田 富信 氏

横田氏は、問題解決学習についての授業研究を進められている。学習問題①が立場を意識させる学習問題になっていないため、調べ学習の際に、子どもたちが立場について調べる必要性を実感できていないのではないかと御指導いただいた。第2次授業研究では、立場に着目できるような学習問題を考え、調べ学習で子どもたちが立場を意識できるようにする。

3 広島県熊野町立熊野第四小学校教諭 中村 祐哉 氏

中村氏は、単元を見通す問い、学びの道筋を示す板書、学びの振り返りを基に日々実践をされている。調べ学習をする際に、子どもたちが立場を意識できるようにするために、子どもたち自身がどの立場について調べているのかを分かるようにしたり、同じ立場を調べる友達同士でペアやグループを作ることができるようにしたりすることが重要であると御指導いただいた。第2次授業研究では、立場ごとに机を寄せ合って調べ学習ができるような環境を整えることで、社会的事象に関連する立場を意識できるようにする。

4 熊本県合志市立西合志東小学校主幹教諭 村上 春樹 氏

村上氏は、子どもの主体性を育て、多様な考えを引き出す授業展開や立場を意識した実践を行っている。子どもたちが、社会的事象の意味を多角的に考えることができるような「なりきり質問会議」後の活動について御指導いただいた。第2次授業研究では、学習問題②について自分の考えをまとめる前に立場ごとに影響を整理する活動を取り入れ、社会的事象の意味を多角的に取り入れることができるようにする。

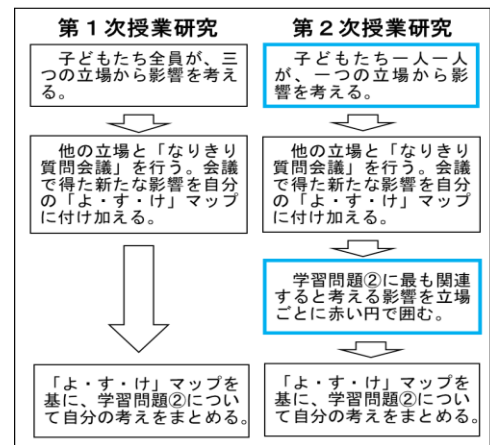
VI 第2次授業研究に向けての改善点

1 検証項目1について

「調べる」段階で、同じ立場を調べている子ども同士で様々なペアやグループが作れるように、教室内を三つの立場のブースに分けて調べ学習を進める。これにより、社会的事象に関連する立場を意識できるようにする。

2 検証項目2について

「考える」段階で、初めに一人一人が三つの立場から影響を考えるのではなく、一つの立場から影響を考え、「よ・す・け」マップに記述させる。そして、「よ・す・け」マップに記述された影響を基に、他の立場と「なりきり質問会議」を行う。「なりきり質問会議」後に、「よ・す・け」マップの立場に与える影響の中で、学習問題②に最も関連すると考える影響を立場ごとに赤い円で囲む活動を行う【資料10】。これにより、社会的事象の意味を多角的に考えることができるようにする。



【資料10 「考える」段階の流れの改善】

VII 第2次授業研究（10月）

1 単元 江戸幕府と政治の安定

2 目標

参勤交代や身分制、鎖国などにおける幕府の政策について資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、武士による政治が安定したことを理解することができるようにする。また、江戸幕府の国づくりについて、社会的事象が複数の立場に与える影響を踏まえながら考え、適切に表現することができるようにする。

3 検証項目

- (1) 「調べる」段階において、社会的事象から「誰が（は）どうなった（どうした）」のかを、立場ごとに集まって調べ、「よって」マップにまとめることは、社会的事象に関連する立場を意識する上で有効か、「よって」マップの記述内容からつかむ。
- (2) 「考える」段階において、一つの立場から影響を考え、「よ・す・け」マップに記述された影響を基に「なりきり質問会議」を行うことは、社会的事象の意味を多角的に考える上で有効か、学習問題②に対する自分の考えの記述内容からつかむ。

4 実践の概要(10時間完了)

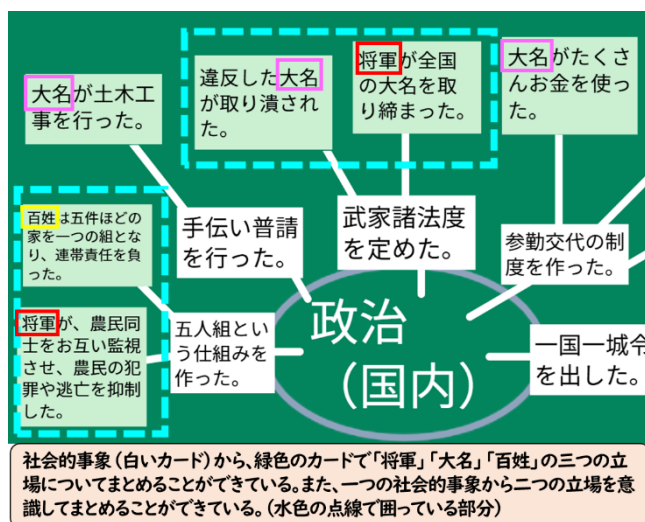
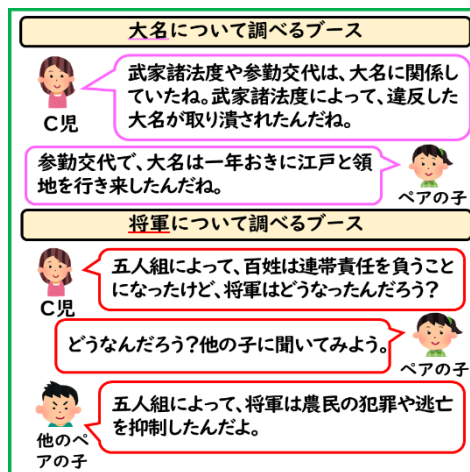
段階	主な学習活動
つかむ	第1時 江戸幕府がどのようにして、武士による安定した時代をつくったのかに疑問をもち、学習問題①「関ヶ原の戦いの後、どのようにして武士による安定した時代をつくりあげ、人々の生活はどうなったのでしょうか」をつくる。 第2時 学習問題①に対する答えの予想を出し合い、追究する視点を設定し、学習計画を立てる。 【視点】・政治（国内） ・政治（国外） 【立場】・將軍 ・大名 ・百姓
調べる	第3時 学習問題①に関する社会的事象を調べる。 【政治（国内）】・一国一城令 ・参勤交代 ・武家諸法度 ・手伝い普請 ・五人組 【政治（国外）】・絵踏み ・鎖国令 第4～5時 社会的事象から「誰が（は）どうなった（どうした）」かを「よって」マップにまとめる。 【検証場面1】
まとめる	第6時 「よって」マップを基に、学習問題①についてまとめる。学習問題①の記述内容から、学習問題②「江戸時代前半は、過ごしやすい時代だったのでしょうか」をつくる。
考える	第7～8時 一つの立場から「よって」マップの先から考えられる良い影響や悪い影響を「よ・す・け」マップにまとめる。 第9～10時 「よ・す・け」マップに記述された影響を基に、他の立場と「なりきり質問会議」を行い、学習問題②について自分の考えをまとめる。 【検証場面2】

5 第2次授業研究の様子と考察（第2次授業実践ではC児に着目する）

(1) 検証場面1（第4～5時）

教室を三つの立場のブースに分けて調べ学習を行った。C児は、初めに大名のブースに行き、大名に関する社会的事象についてペアで調べ、「武家諸法度を定めたことによって、違反した大名が取り潰された」「参勤交代によって、大名は一年ごとに領地と江戸を行き来した」などと「よって」マップにまとめた。次に、将軍のブースに行き、大名について調べたペアで調べ学習を行っていたが、社会的事象から将軍がどうなったのかが分からなかったため、すぐ近くの他のペアの子と一緒に調べた。そして、「五人組を作ったことによって、将軍は農民の犯罪や逃亡を抑制した」などと将軍がどうなったのかを「よって」マップにまとめることができた【資料11】。最後に、百姓のブースに行き、また別のグループと調べ、社会的事象から百姓がどうなったのかを「よって」マップにまとめることができた。

このように、第1次授業研究では特定の友達と調べ学習を行っていたC児は、各ブースで同じ立場を調べる様々な友達とペアやグループを作って調べたことで、社会的事象から三つの立場がどうなったのかを「よって」マップにまとめることができた。さらに、武家諸法度から大名と将軍、五人組から将軍と百姓のように、一つの社会的事象から複数の立場を意識しながらまとめることができていた【資料12】。



(2) 検証場面1の結果と考察

A（十分満足できる）	B（おおむね満足できる）	C（努力を要する）
社会的事象に関連する三つの立場を意識することができている。かつ、一つの社会的事象から複数の立場を意識することができている。	社会的事象に関連する三つの立場を意識することができている。	社会的事象に関連する三つの立場を意識することができていない。
27人		3人
21人（A児・B児・C児）	6人	

A児やB児、C児のように、三つの立場を意識して、「よって」マップにまとめることができた子どもは30人中27人いた。これは、教室を三つのブースに分けて調べ学習を進める中で、様々な友達同士でペアやグループを作り、同じ立場を調べることができるようになったことで、社会的事象に関連する立場がどうなったのかを意識することができたからだと考える。

(3) 検証場面2（第9～10時）

第7時と第8時で、将軍、大名、百姓の立場を決めて、「よって」マップの先から考えられる良い影響や悪い影響をまとめた。C児は、百姓の立場になり、「五人組は、百姓が互いに助け合いができたため、良い影響だった」や「手伝い普請は、力仕事をさせられて、百姓にとっては大変だった」などと百姓に関する良い影響や悪い影響を「よ・す・け」マップにまとめることができた。

第9時と第10時では、三つの立場がいる6人グループとなり、「なりきり質問会議」を行った。

C児は、あらかじめ考えていた将軍や大名に対する質問を聞いたり、出された質問に自分の「よ・す・け」マップを見ながら応答をしたりしていた【資料13】。「なりきり質問会議」の中で、「手伝い普請は、大名にとっても時間も資金も多く掛かって大変だった」や「参勤交代で、将軍は大名の力を抑止して、一揆を起こさせないようにすることができた」など他の立場の影響に気付くことができ、「よ・す・け」マップに付け加えていた。「なりきり質問会議」が終わった後の学習問題②に最も関連すると考える影響に立場ごとに赤い円で囲む活動では、C児は、政治（国内）と政治（国外）の「よ・す・け」マップを見ながら、「将軍は権力が強くなった」「大名は自由に貿易ができなくなり、経済力が減った」「百姓は、連帯責任で罰せられて悪影響だった」を赤い円で囲んでいた【資料14】。最後に、学習問題②について自分の考えをまとめる活動では、「少し過ぎしにくい時代だった」として、赤い円で囲んだ三つの立場に与える良い影響や悪い影響を基に、三つの立場を踏まえて、理由を記述することができていた。また、赤い円で囲む活動が、影響について振り返る時間にもなり、同じ立場に与える同様の影響に気付くこともでき、「大名は鎖国令によって自由に貿易ができなくなったり、一国一城令で一つしか城を作れなくなったりするなど、経済力が下がってしまった」のように複数の社会的事象を関わらせながら意味を考えることができていた【資料15】。

C児は百姓の立場

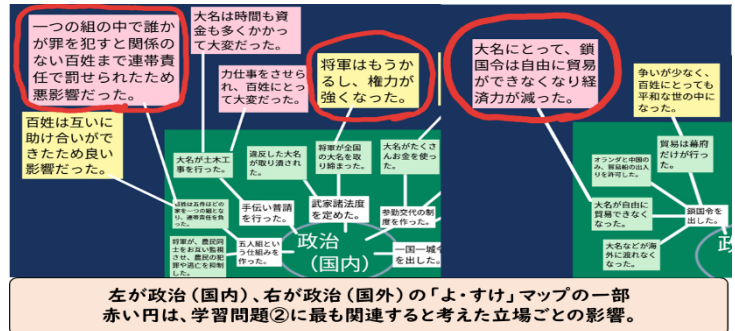
C児百姓：質問…手伝い普請で、大名が土木工事を行って、私たち百姓も力仕事をさせられて大変だったよ。大名たちは実際どうだった？

児童大名：応答…俺たち大名も時間も資金も多く掛かって大変だったよ。

児童将軍：質問…五人組の仕組みを作って、何かあったら連帯責任を取るようにしたけど、本当のところ影響はどうだった？

C児百姓：応答…連帯責任で罰せられるのは嫌だけど、その分百姓同士助け合いができたから悪いことだけではないよ。

【資料13 C児の「なりきり質問会議」】



【資料14 C児の「なりきり質問会議」後の「よ・す・け」マップ】

私は、少し過ぎしにくい時代だったと思う。なぜなら、**将軍**は武家諸法度などで大名などを統制し、**圧倒的な権力**をもつことができた。しかし、**大名**は鎖国令によって自由に貿易ができなくなったり、**一国一城令**で一つしか城を作れなくなったりするなどで、**経済力が下がってしまった**。**百姓**は五人組の連帯責任で罰せられたり、**絵踏み**によりキリシタンになることを禁止されたりするなどつらいことも多かったから。

【資料15 C児の学習問題②に対する自分の考えの記述】

(4) 検証場面2の結果と考察 ※欠席1人

A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
社会的事象の意味を多角的に考えることができています。かつ、複数の社会的事象を関わらせながら意味を考えることができています。	社会的事象の意味を多角的に考えることができています。	社会的事象の意味を多角的に考えることができていない。
26人		3人
10人 (A児・C児)	16人 (B児)	

A児やB児、C児のように、学習問題②の記述内容から社会的事象の意味を多角的に考えることができた子どもは29人中26人いた。これは、一つの立場から影響を考えさせたことで、その立場に与える影響について考えやすくなり、それを基に、「なりきり質問会議」を行った結果、自分の立場に関する質問に答えたり、社会的事象の他の立場に対する良い影響や悪い影響に気付いたりすることができたからだとする。また、「なりきり質問会議」後に、学習問題②に最も関連すると考える影響を立場ごとに赤い円で囲む活動を行い、それを基に学習問題②について自分の考えをまとめたことで、三つの立場で考えやすくなることのできたからだとする。

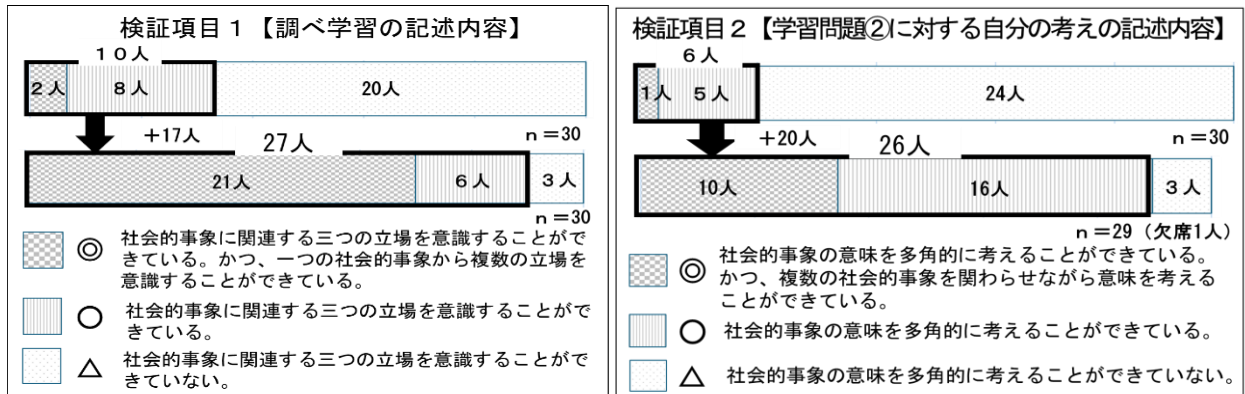
一方で、社会的事象の意味を多角的に考えることができなかった子どもが29人中3人いた。これは、それぞれの立場に与える複数の良い影響や悪い影響の中で、どの影響が学習問題②に最も関連しているかを一人で考えることができなかったことが原因だと考える。

VIII 研究のまとめ

1 研究から明らかになったこと

(1) 広い視野から考える力の育成

授業研究を通して、社会的事象に関連する三つの立場を意識することができた子どもが10人から27人と17人増え、社会的事象の意味を多角的に考えることができた子どもが6人から26人と20人増えた【資料16】。このことから、社会的事象から「誰が(は)どうなった(どうした)」のかを「よって」マップにまとめる活動や「よ・す・け」マップを基に「なりきり質問会議」を行い、複数の立場に与える良い影響や悪い影響に気付く活動を取り入れることは、広い視野から考える上で有効であることが明らかになった。



(2) 実践後の子どもの様子

第2次授業研究後の「明治の国づくりを進めた人々」の学習では、「明治時代は、過ごしやすい時代だったのでしょうか」という学習問題②をつくった。A児やC児は、「殖産興業で、官営工場や鉄道建設により、平民にとっては新たな仕事の機会が生まれて良かった」や「徴兵令により、士族は特権を奪われたことで、不満がたまっていった」などと「よ・す・け」マップにまとめた。次に、華族、士族、平民の三つの立場から「なりきり質問会議」を行った。B児は、士族の立場で質問や応答を繰り返したことで、三つの立場の良い影響や悪い影響に気付くことができた。そして、学習問題②に対して、「地租改正によって、国の収入が安定したことで、工業や商業の発展に力を入れることができ、士族や平民にとっても生活が便利になって良かった。華族令により、華族は選挙に関係なく議員として議会に参加でき、考えを政治に反映させることができたから良かった。だから、明治時代は過ごしやすい時代だったと思う」と記述し、広い視野から考えることができた。このような子どもの姿に研究の成果が表れていることを感じた。

2 今後の研究に向けて

社会的事象から「誰が(は)どうなった(どうした)」のかを「よって」マップにまとめる活動や「よ・す・け」マップを基に「なりきり質問会議」を行い、三つの立場に与える良い影響や悪い影響に気付く活動を通して、広い視野から考える子どもを育てることができた。一方で、社会的事象の意味を多角的に考えることができない子どもが見られた。そのため、「なりきり質問会議」後に、それぞれの立場に与える複数の良い影響や悪い影響の中で、どの影響が過ごしやすいか過ごしにくいかを考える上で最も重要かを友達と確認する活動を取り入れる必要があると考える。今後は、手立ての更なる改善を図り、広い視野から考えることができるように子どもとともに学んでいきたい。

参考・引用文献 粕谷昌良『「考えたくなる」社会科授業』明治図書(2024)

『アナザーストーリーの社会科授業』学事出版(2019)